

## 36 当院における DPP-4 阻害薬による血液透析患者の糖尿病管理と透析管理について

JA 長野厚生連佐久総合病院 腎臓膠原病内科

○樋端恵美子 萩原正大 伊藤健太 村上 稔

降旗俊一 山崎 諭 池添正哉

### 【背景】

本邦では、09年の新規透析導入患者の原疾患の約44.5%が糖尿病性腎症によるものとなっている。しかし、透析導入後の血糖管理については定まったコンセンサスはない。また今までの糖尿病治療では、透析患者においてインスリンや抗糖尿病薬の遷延により低血糖が生じやすいため、厳密な管理は困難であった。

当院では、糖尿病を有する血液透析患者の中で、以下の項目を満たす患者に対し、新たに認可された DPP-4 阻害薬による治療を開始している。①自己インスリン分泌が残されていると推定される患者、②予後不良が予測される活動性疾患を有さない患者、③高血糖の持続や低血糖の頻発など血糖管理が困難な患者、④低血糖症状や体調不良などの際に、自己で判断し施設側に伝えられる認知能力と疎通性のある患者。

### 【症例】

10年7月から11年2月までに DPP-4 阻害薬の治療を開始した症例は11例認められ、治療の自己中断な

どを除外し、8症例について、副作用、低血糖の発症や血糖管理の改善の有無、さらに体重コントロールなど透析に必要な自己管理などの改善について評価を行った。

### 【結果】

DPP-4 阻害薬による治療開始後、低血糖の発症は認められず、食後血糖は横ばいまたは微増となっていた。HbA1c は多くのケースで減少、または横ばいとなっている。また、体重増加率の変化では約半数に体重変化率の低下が認められた。

### 【結語】

糖尿病を合併する透析患者において警戒すべき、低血糖の発症や高血糖による口渴・多飲などの問題の解決に、DPP-4 阻害薬は有用である可能性があり、今後、当院を含めた当該地域施設における、透析患者への糖尿病治療のさらなる向上につなげたい。